

子どもたちが生き生きと活動する学校生活の実現を願って

海津市立高須小学校 伊藤英子
特別支援教育専修 坂本裕

はじめに

我が国においては、2006年に、特別支援教育の推進のための学校教育法等の一部改正がなされ、特に、小学校、中学校等におけるその在り方に関する第75条、「小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校には（中略）特殊学級を置くことができる」が第81条「小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び幼稚園においては（中略）障害による学習上又は生活上の困難を克服するための教育を行うものとする」と大きく変更された。この改正により、特殊学級設置がその主であった特殊教育から、全校体制での特別支援教育への転換が図られることとなった。

本稿では、小学校において、学校全体の教育活動に根付き、一人一人の学習の状況にあわせた展開をし、どの児童も生き生きと活動する姿をみせてくれた特別支援学級の実践事例を報告する。

実践事例：単元「おもちゃさんになろう」

<単元の検討>

(1) 児童の教育的ニーズに合わせた、指導計画の工夫

単元の指導計画を作るにあたり、在籍が5名ということで困難なことがあった。それは、5人がそろう時間が少ないことである。5人は、社会性を育てることを意図した交流学級へ行く時間が設けられている。個人によって、交流学級での授業に参加する教科に違いがあり、時間もまちまちである。そのために、5人そろっての授業を仕組むことに難しさがああり、急な変更がある時には、ますます計画が進まなくなることがある。

そこで、単元指導計画を作るにあたり、単元計画カレンダーとして時間で区切ることなく、「日」で追うこととした。仲間が交流学級の授業に行ったり、学年の行事でS自然の家宿泊研修に行ったり、K市の音楽会や学年別の校外学習に行ってしまうこともある。そういうときには、「自分が、その子の分もがんばるんだ。」という気持ちをもって臨み、時間で区切らず日で追う計画にすることで、計画を進めていくことにした。また、自分が交流学級で学習しているときに、作業があっても、信頼関係のもと、「自分の分まで仲間ががんばってくれているんだ。」という思いを持たせたいと考えた。また、製作するにあたっては、くり返し製作することとした。くり返す中で、作業にも慣れることができ、必要な技能を身につけることができると考える。

(2) 個における社会性の明確化と社会性を育てる支援

児童の実態把握を行う上で、社会性の実態把握について、行動観察だけでなく、上野・岡田(2006)を参考にして、評価項目・尺度数字を作成した。10を平均として、社会性における児

童の得意とする部分や支援が必要な部分を明らかにし、支援に役立てようと考えたからである。実態把握の中でも、社会自立に必要なと思われる社会性をくわしく見ることで、その児童にとって高めていきたい力はどこにあるのかが分かると考えたためである。そこに一人一人の教育的ニーズがあると考え、社会性を育てるために、単元の中で一人一人に応じた支援の場を設けることとした。

<単元について>

T小学校の特別支援教育の目標は「げんきで なかよく がんばる子」を合い言葉にして願う子どもの姿を、①元気に登校し、自分から進んで活動する子 ②仲間と声をかけ合って活動する子 ③がんばって最後まで活動する子とする。その目標の具現にに向けて、基本的な生活習慣を身に付けること、基礎・基本の学力を付けること、コミュニケーション能力を育てることに重点をおいて、教科や生活単元、自立活動の中で取り組みを行ってきた。

本単元では、仲間と力を合わせて、製作する活動や実際の生活場面を想定し、体験を通して学ぶ活動を取り入れることで、「働く」とはどういうことか考え、店で働くことを想定し、そこで必要と思われるコミュニケーション能力を育てたい。

社会生活において、自立した生活を営むための力を付けることは、どの学年のどの児童にとっても、大きな目標である。そのためには、身の自立、金銭を扱うこと、自分の仕事として役割を果たすこと、コミュニケーションがとれることが必要である。

これらの力を付けたいと願い「おもちゃさんになろう」において、まず、作り方を覚えるためにくり返し製作を行う。くり返し製作する中で、色の具合ややわらかさや味について試行錯誤する中で、毎日、同じことをすることが多くあり、同じものを毎日見たり食べたりしても、途中で「飽きた」と投げ出さないことが大切であることを指導したい。

また、決められた自分の持ち場を、お互いに声をかけ合いながら、みんなで一つのを製作する中で、持ち場を守ることの大切さを実感してほしい。そして、一人ではできないことがあっても、みんなの力を合わせれば製品ができあがっていく楽しさを感じながら、仲間とともにコミュニケーションがとれるようにしたい。

<単元の実際>

(1) 単元計画

9月26日から11月2日と1か月を超える単元であったが、表1のように大きく3期に分け、第1期は活動「いろいろ作ってみる」を、第2期は活動「交流学級へプレゼント」、第3期は活動「おもちゃさん開店」と、おもちゃ作りの活動を自分で、そして、友達へ、更に、お客さんへと、その活動の幅や対象を変化させていくようにした。このことで、どの児童も活動により強い興味をもって取り組むことができた。

表1 生活単元学習「おもちゃさんになろう」の単元計画

日にち	ねらい	学習活動	留意点	学年行事等
9/26	・簡単にできるおもちの作り方がわかる。 ・色や形を考えて、作っていくうちに、作業の順番を覚えることができる。	「昨日「月見だんご」を食べたかな？」で始まり ・色を付けない白いもち・かたぬきをする	・みんなと力を合わせて行うことができた日には花を貼って行く。 ・作り方が分かるように、写真の提示をし、短い言葉で作り方を示し覚えやすいようにする。	
27	・自分のできる仕事をおこなう、仕事を分担して、みんなで作るという意識を高める。	・白いもちと氷蜜(赤)を混ぜたもち ・かたぬきをする	・やったことのない仕事に挑戦しようとする姿には、声をかけ不安を除くために、援助しながら挑戦させてみる。	
28		・かぼちやを蒸しつぶして混ぜたもち ・○の形(手で丸める)	・作った後は味わい、また作りたいという意欲を起こす。	
10/1		・氷蜜(黄)を混ぜたもち ・自分で形を作る(作りたい形)		5年 S自然の家 宿泊研修
2		・白いもちと赤のもち ・自分で形を作る(作りたい形)		
3		・三色だんご風(赤、白、緑)で爪楊枝にさす		
4		・さつまいもを蒸しつぶしたものを混ぜたもち ・○の形		
5	・誰にプレゼントしたいか考えることができる。	プレゼントしたい人を考える。	・お世話になっている人を考える。	
9	・先生方にプレゼントする準備ができる。	学校の先生の人数把握(校長先生に尋ねる)、入れる折り紙箱作り(一人一人に渡すように作る)、おもちを作るときの仕事の分担を行う たんぼほ如からさつまいもの収穫	・自分のできそうなことを考えて仕事を分担する。	午前授業
10	・先生方に心をこめておもちを作って渡すことができる。	先生方へのプレゼントのもち作りをし、プレゼントを渡す		
11	・心をこめて家族へプレゼントする準備ができる。	もち作りをし、自分で飾りを付けた包装袋に入れる、メッセージカードを作る	・カードにどんなことを書いたらいいのかが具体的に示したり、包装袋の見本を示し、自分なりの工夫を入れるようにする。	
12	・家族に渡すことができる。 ・買い物をし、売り方の参考にする。	祖父母参観の時に家族へプレゼントする。 高須バザーで買い物する。	・作り方を聞かれて答えられるように掲示しておく。 ・売り方の様子を見るときに視点を与える。	祖父母参観
15	・一人で作るのではなく、みんなと力を合わせて、おもちを作ることができる。 ・気持ちをこめて、おもちを作ることができる。	人数把握(校長先生に尋ねる)、どんな気持ちで作るか考える。入れる箱を作る。持って行ったときに話す内容を考える。おもちの色や形を決める、渡すときの内容の練習	・やれることができてきて、やりたいことが重なりトラブルになりそうなきは、どうしたらよいかを当事者に考えてもらう。 ・気持ちを込めるとはどういうことかを考え、具体的な言葉にしたものを提示しておく。	
16	・自分の決めた仕事に、最後まで取り組むことができる。	おもち作り、4年1組へプレゼント	・自分で仕事を決めて、やり遂げることで仕事ができるという自信をもたせる。	4年交流
17		おもち作り、6年1組へプレゼント		6年音楽会
18	・交流学級へ渡しに行くことができる。	おもち作り、5年1組へプレゼント		
19		おもち作り、2年1組へプレゼント		
22	・自分の力を考えて、どんな仕事ができそうか考えることができる。	折り紙箱作り、値段決め、売のおもちの色や形を決める。	・今までのことを思い出しながらおもちやさんとなってできることは何かを自分なりに考える。	
23	・おもちゃさんをするに必要なのは何かを考えることができる。	役割分担(注文係、包装係、計算係、接待係、会計係)と仕事の流れの確認	・自分の力に合わせて作る箱の数を決めて作る。	
24		看板作り	・店をやるときの仕事の流れがつかめるようにシートを作る。	午前授業
25		仕事内容の確認		
26		定休日		2, 4, 6年 社会見学
29	・学校の先生方にお客さんになってもらい、店を開くことができる。	おもち作り、おもちゃさん開店(校内の先生方にお客さん)	・自分の仕事を最後まで行えるように、できていることをほめ、不安なことには寄り添う。	
30	・店をやったことの反省会を行い課題を出すことができる。	おもちゃさんをやってみて、がんばったこと、よかったこと、なおしたいことを考える。	・がんばりカードを見て自分の仕事を振り返る。	
31	・店の準備を行うことができる。	なおしたいことを補うように、店の準備をする。	・やれなかったことに対してはどうするとよいか、共に考える。	
11/1	・自分の仕事内容の確かめをすることができる。	仕事の流れの確認を行う。	・仕事の流れの中の自分の位置を確認する。	5年社会見学
2	・他の学校の先生方にお客さんになってもらい、おもちゃさんを行うことができる。	おもちゃさん営業(市内の先生方にお客さん)	・自分の仕事が最後まで行えるように、できていることは褒め、不安なことには寄り添う。	

(2) 児童へ願う姿とその支援

5人の児童の生活の様子、願う姿、そのための支援を表2に示した。また、今回特に検討した社会性に関する状況を表3に示した。このように児童一人一人の教師による捉えや願い、更に、その実現のための手だてを明確にすることで、どの児童も生き生きと取り組む姿を見せてくれた。

表2 児童の児童の生活の様子、願う姿、そのための支援

		興味・関心	数・計算	作業能力	仲間との関わり
2年 男 M・T	様子	好きなことには取り組むが、いったん思いこんだら、気持ちは切り替わらない。	算数は交流学級で学ぶ。 計算は得意とする。	思い通りに行かないものに八つ当たりすることが多い。	人見知りが強く、慣れるのに時間がかかる。
	願う姿	やってみようという気持ちを持ち、取り組もうとすることができる。	数が出てくる場面で、ものを図ったり、自分から計算したりすることができる。	自分のできそうなことに取り組むことができる。	大人だけでなく、仲間に声をかけることができる。
	支援	やることのできそうな活動を入れ、できたことを認めていく。	「あと何個作るのかな。」など、計算が必要な場を設ける。	できそうなことが何かを聞きながら、取り組みに対し、認め励ましを行う。	関わりが持てるように声をかけるが必要な場を設ける。
2年 男 M・K	様子	食べることへの関心は強く、楽しそうなことは何でもやりたがる場面が多い。	15までは数えることができる。 足して答えが10までの計算はほぼできる	目先の気になることがあると集中できず作業が進まない。	大人には、人なつこく誰にでも話しかけて行く。
	願う姿	気分次第で行動するのではなく、楽しみながら、活動することができる。	お客さんの注文の数を聞いて、その数の分だけ正しく出すことができる。	自分の役割を忘れずに行うことができる。	元気なあいさつをすることができる。
	支援	どの活動にも楽しさが出るように、雰囲気作りを行う。	受けた注文の数だけ、包む場を設ける。	個人のがんばりカードにより、毎時間の自分の役割を確認する。	「いらっしやいませ」「ありがとうございました」をどの場でどんなふうにするか明確にする。
4年 男 K・S	様子	決められたことよりも、自分の想像することを進めることが好き。	落ち着いて行えば、正しい計算ができる。 3桁の足し算、ひきざんはできる	決められたことをやろうとするが、工夫を入れようとするため、最後までやり遂げることが難しい。	気が向いたことなら譲ることができるが、そうでないと聞き入れず自分の思いで行動してしまうことがある。
	願う姿	自分の意見だけでなく、仲間がいるということを常に意識して活動に取り組むことができる。	数が出てくる場面で自分から計算することができる。	決められた作業を行うことができる。	工夫を入れたときには、自分の考えを仲間に提案してから行動することができる。
	支援	力を合わせておこなっていることを常に話していく。	計算の必要な場を設ける。	自分の持ち場を決め、与えられた仕事を最後までやり遂げたとき大いに褒める。	みんなで力を合わせることで製品になっていることをカードで知らせる。
5年 男 W・M	様子	いやなことはいやと言ってしまいが、我慢して行動することができる。	間違えても気にせず、再チャレンジしてできるまで計算に取り組むことができる。	仕事をするにはできるが、おどおどしてしまうことが多い。	人と目を合わせて話すことが苦手であるが仲間とは接することができる。
	願う姿	いやなことがあっても態度に表さないようにして行動することができる。	数が出てくる場面で計算することができる。	担当した仕事を自信をもってやれる。	顔を上げて話すことができる。
	支援	我慢して行動できたことに対しては大いに褒め価値付けていく。	計算が必要な場を設け計算を促す。	工程表での重要なパートに仕事をもち、繰り返す中でできたことを褒める。	客に接する係となり、初対面の人でも顔を見る場を設ける。
6年 女 Y・M	様子	好きなことは行いが嫌いと言ったら動かなくなる。	好んでは計算はやらないが、計算はできる。 4年から5年の計算はできる	人が多かったり、初めてのときには作業ができない。	慣れるまでに時間がかかるが特別支援学級内では、2年生に話しかける姿が多い。
	願う姿	最高学年としての自覚を持ち、少しでも自分のできることをやろうとすることができる。	数が出てくる場面で計算しようとするすることができる。	人前でも自分の仕事ができる。	仲間との関わりのある場で声をかけることができる。
	支援	自分のできることは何か、声をかけながら決めていく。	計算が必要な場で計算を行ったときに大いに褒める。	仲間と関わりながらできる仕事の間を設ける。	仲間に声をかける場を設ける。

表3 児童の社会性に関する状況と願う姿, 指導方針

ソーシャルスキル尺度 (上野・岡田, 2006より作成)					見 解	教育支援計画より願う姿と 指導方針 (社会性)	本時での願う姿と支援
集団 行動	セルフ コント ロール	仲間 関係 スキル	コミュ ニケー ション スキル				
2年 男 M・T	8	2	2	12	<ul style="list-style-type: none"> 感情のコントロールや行動のコントロールに弱さがある。 コミュニケーションスキルはあるが、仲間関係の開始や維持ができない。 	<p>《願う姿》</p> <ul style="list-style-type: none"> 大人とだけでなく子ども同士でなかよくする。 命令口調ではなく「～してください。」「ありがとう」を話すことができる。 <p>《指導方針》</p> <ul style="list-style-type: none"> 仲間となかよくできるような場を設け、なかよくしているときに褒める。 	<p>《願う姿》</p> <ul style="list-style-type: none"> いくらになつたかを仲間に話すことができる。 人前でも役割をこなすことができる。 <p>《支援》</p> <ul style="list-style-type: none"> 計算することは得意であるのでできることを生かした係とし、できたときにほめる。
2年 男 M・K	6	7	7	4	<ul style="list-style-type: none"> 聞く、話す、アサーション、話し合いなどのコミュニケーションスキルが弱い。 セルフコントロールはできる。 	<p>《願う姿》</p> <ul style="list-style-type: none"> 集団行動の場面ではみんなと同じ行動ができる。 <p>《指導方針》</p> <ul style="list-style-type: none"> 交流学級で過ごすときには、事前にめあてを確認したり活動内容を知らせたりする。 	<p>《願う姿》</p> <ul style="list-style-type: none"> 人前でも、自分の仕事を忘れないうで行うことができる。 <p>《支援》</p> <ul style="list-style-type: none"> お客さんと接する係でなく、自分の仕事をやり遂げる場を設け、やり遂げたときにほめる。
4年 男 K・S	4	3	8	9	<ul style="list-style-type: none"> 集団参加や役割遂行に弱さがある。 感情のコントロールができないことで、行動を制御できない。 思ったことをすぐに話すことはできる。 	<p>《願う姿》</p> <ul style="list-style-type: none"> 状況把握ができる。 今は何をするときか考えることができる。 人の気持ちを考えることができる。 <p>《指導方針》</p> <ul style="list-style-type: none"> 今は何をするときかを明確にして話をしたり、絵や文で知らせたりする。 評価表で自己を振り返る。 	<p>《願う姿》</p> <ul style="list-style-type: none"> 決められた仕事を最後までこなすことができる。 周囲の様子を見て、合わせるすることができる。 お手伝いをしたくなかったときは、お手伝いしてもいいか聞いてから行動することができる。 <p>《支援》</p> <ul style="list-style-type: none"> 開店と閉店を示す音楽担当になり、周囲の様子を見て活動する場を設ける。
5年 男 W・M	7	5	6	7	<ul style="list-style-type: none"> 視線を合わせたりほほえみかけるなど仲間関係の開始が弱い。 集団への参加については、ルールや約束を守ることができる。 	<p>《願う姿》</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手のことを考えた言葉使いができる。 高学年であることを意識することができる。 <p>《指導方針》</p> <ul style="list-style-type: none"> 高学年とは、どういう姿がよいのかを場に応じて話し、理想的な行動がとれたときには、褒める。 	<p>《願う姿》</p> <ul style="list-style-type: none"> 初めての人も目線を合わせて相手のことを考えた言葉使いができる。(仲間関係スキル) <p>《支援》</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し言葉のマニュアルを提示することで自信をもって話せるようにする。
6年 女 Y・M	6	6	1	9	<ul style="list-style-type: none"> 仲間関係を開始したり維持することがたいへん難しい。 対人マナーを守り話を聞くことはできる。 気持ちの切り替えがうまくできず、感情のコントロールが難しい。 	<p>《願う姿》</p> <ul style="list-style-type: none"> 誰とでもあいさつできる。 学校に毎日登校できる。 <p>《指導方針》</p> <ul style="list-style-type: none"> 複数の友達や先生とあいさつを日課とする。 本人の気持ちを受け止めながら相手の気持ちを考えることを通して、自分も関わっていくことが大切であることをつかませていく。 	<p>《願う姿》</p> <ul style="list-style-type: none"> 人前でも、自分の仕事を行うことができる。 仲間にかかわることができる。 <p>《支援》</p> <ul style="list-style-type: none"> お金を代金どおりにもらえたかどうか練習を重ねることで自信をもって、お金を受け取ることができる。

*男子：1～15, 女子：1～14

<授業の実際>

11月2日にK市特別支援教育研究会の授業研究会として実施した。その際、授業の展開を表4に示した。写真1、2（注文取り）、写真3（盛り付け）、写真4（お金の計算）のように、自分の担当した係活動に自信をもって取り組んでくれ、満足しておもちやさんを閉店することができた。

表4 単元「おもちゃさんになろう」の授業の実際（11/2）

ねらい	学習活動					指導・援助○評価の観点
	M・T 男(2年)	M・K 男(2年)	K・S 男(4年)	W・M 男(5年)	Y・M 女(6年)	
つかむ	1 本時のめあてをもつ。 おもちゃさんになって、おもちゃを売ろう					・掲示物を見て、活動を思い出す。 ○自分の服装を見直すことができる。
	2 自分の役割と仕事をカードに書く。					・めあてが意識できるように声に出して読む。 ○はきはきとした声でめあてを読むことができる。
	計算係	包装係	注文係	接待係	会計係	○自分のめあてを書くことができる。
	「いくらになるか計算する。」	「注文の数だけ包を装する。」	「お客さんからの注文を受ける。」	「品物を渡し、金額を話す。」	「お客さんからお金をもらう。」	○一人一人のがんばりカードを掲示し、意識しやすいようにする。 ・自分の係をがんばっている姿を認める。
ふか	3 開店し、それぞれの係に分かれて活動する。(音楽を流す)					・係の仕事にこだわらず、困っている子がいたら、助けてあげるように声をかける。
	◎あいさつをする 「いらっしゃいませ」 計算する。 たしざんする。	◎あいさつをする 「いらっしゃいませ」 ◎返事をする。 「○○は○です」 ◎注文にあわせて計算し金額を接待係に話す 「会計は○円です。」	◎呼びかけをする。 「開店します。」 ◎あいさつをする 「いらっしゃいませ」 ◎注文を聞く。 「○○は○です。わわかりました。」 ◎お客さんにお願います。 「少しお待ち下さい」	◎あいさつをする 「いらっしゃいませ」 ◎金額の合計をお客さんに話す 「お待たせしました」 「○個です。」 「会計は○円です。」	◎あいさつをする 「いらっしゃいませ」 計算係のそばにいる ◎お客さんからお金をいただき金額を確かめる。 「はい。」 必要に合わせて「おつりです。」	○あいさつは、元気よく大きな声で話すことができる。 ○用件は、はきはきと相手に聞こえる声で話すことができる。
	◎あいさつをする 「ありがとうございました」	◎接待係に伝える 「用意できました」	◎包装係に伝える 「○○が○です。」	◎あいさつをする 「ありがとうございました」	◎あいさつをする 「ありがとうございました」	・衛生に気をつけて活動しているか配慮する。
	繰り返し活動する	◎あいさつをする 「ありがとうございました」 繰り返し活動する	◎あいさつをする 「ありがとうございました」 繰り返し活動する	繰り返し活動する	繰り返し活動する	○お客さんに作り方を聞かれたときは掲示物を見て答えるようにする。
める	4 自分のがんばったことを書く。					・一人一人のがんばりを認め、良い姿をほめて、認めていく。
	5 友だちのがんばりに拍手をする。					・最後まで取り組むことができるように声かけしたり寄り添って活動を見届ける。 ○自分のがんばったことを書くことができる。 ・友だちのよさには、拍手で認めていく。



写真1 みんなおいしいですよ



写真2 ちゅうもんをくりかえします



写真3 これとこれと、これ



写真4 いくらになるかな

おわりに

2008年1月に示された「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」（中央教育審議会、2008）において、「小・中学校の特別支援学級や通級による指導は、小・中学校における教育の一形態であることを、すべての教職員が十分認識し、その指導が学校全体で行われるようにする」ことを原則として、「特別支援学級、通級による指導に係る特別の教育課程の編成に当たっては、特別支援学校学習指導要領に定める事項を取り入れた教育課程を編成することができることを明確にする」「学校内の支援体制を整備するとともに、学校全体で取り組むこととする」「個々の子どもの実態を的確に把握し、それに応じたきめ細かな指導を行うため、個別の指導計画の作成に努めること」「一人一人に応じた適切な支援を行うためには、家庭や関係機関等との連携が重要であることから、必要に応じて、個別の教育支援計画の策定やその活用を図ること」が明示された。このように小・中学校における特別支援学級の位置づけが明確化されたことを踏まえ、本稿で紹介したような児童生徒一人一人に応じた授業実践を展開ができるように、これからも研鑽に努めていきたい。

付記 本報告は関係者の了解を得ている。

文献

中央教育審議会（2008）：幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）。

上野一彦・岡田智（2006）：特別支援教育実践ソーシャルスキルマニュアル。明治図書。